

## 求ム! 『ササヒビ』情報



▼数年前、たこつぼ漁の打ち上げだつたのだろうか？ 漁師のKさんのお家でごちそうをいただいていたとき、「いいかい、中津んひかたには、たこつぼ漁なんかより、もっとすごい漁があったんぞ」という言葉が飛び出した。「なにに、それってどんなやつ？」すかさずM隊員が話題に飛びつく。これこそが記念すべき「水辺に遊ぶ会ササヒビ漁に出逢う！の瞬間だった」。

▼ササヒビってなん？ 漁師さんたちの言葉から想像するに、ササヒビとは、干潟の干満を利用した一種の定置網であるらしい。干潟に、沖から陸に向かって広がる形のV字型に笹(竹?)の垣根を作り、一番先端に網を仕掛けておく。そうすると、潮が引くのと同時に沖に向かう魚が誘導されて、網の中に勝手に入ってくる。あとはショウケ(カゴ)を持って海に行き、網の中にとっつかまっただお魚を持ち帰るだけという、なかなか楽ちんな漁のようだ。(いやいや決して楽ちんじゃないんだらうけど) よく考えると、このササヒビ漁、自然を上手いこと利用した合理的な漁法である。しかも、たこつぼ漁と同じで、獲りすぎない、環境にやさしい漁法でもあるぞよ。ふふん。なにやら楽しそうなことになってきたぞ。なーんて、お気楽ゴクラクな構想が始まった…のか？

▼「海に環す水母の傷は海が医(いや)津田清子作」や「ばり外国にも日本製の製品が遠慮なく押しかけてますね。今度見に行こう」と。(あ)空梅雨？水不足？と思いきや九州が沈まんばかりの勢いの雨・雨・雨。ラニーニョの影響だって？ というより地球が号泣してるんじゃないの？(う)

▼「さ、それできる人いるの？」と聞くと、なんと！海苔体験漁で見事なスタレ編みを披露してくださるH師匠が唯一の経験者というではありませんか。これは秘伝の技を伝授していただかねば！とさっそくササヒビ漁のお話を聞く会を設けたのだ。さて、このササヒビ漁、たこつぼや海苔のように簡単にはいかないぞ。本腰入れんな。よし、数年のうちにササヒビ漁を再現しようじゃないか。なんて力が入った私たちだった。この時の師匠のお話は中面。

▼ところがである。うかうかしてたら宇佐の海岸で「石干見(いしひみ)漁」を再現。なんてニュースが飛び込んできた。しまった、先を越されてしまった…。ま、気を取り直して、私たちが「私」は、さ、中津は「笹干見」と書いて「ササヒビ」と読むようでありませぬ。構造もH師匠のお話でなんとなくわかってきた。魚だけじゃなく、ヒビではアサリやハマグリもとれたらしいし、時にはハチガメやウミガメも引つかかっていたそうなの。でも、水辺に遊ぶ会としては、いまひとつ物足りない。

▼てな訳で、「ササヒビ漁を再現するぞー」な気分を盛り上げるため、ササヒビにまつわる逸話、写真、絵記録…その他にかくなんでも募集。中だ。ほんの小さな記憶でもかまわないので、ぜひぜひお待ちしてまーす。

- 活動報告(2007. 5. 1~2007. 7. 10)
- 5. 3 たこつぼ体験漁3回目
  - 5. 4 H19年度調査計画ミーティング
  - 5. 5 舞手川河口調査
  - 5. 14 H18年度会計監査
  - 5. 17 農政モニター交流会議出席
  - 5. 19 NPO法人水辺に遊ぶ会総会
  - 5. 20 北部小PTA三百間海岸清掃参加
  - 5. 22 がんばれ大分ファンド運営会議
  - 5. 29 国交省海岸室長中津干潟視察案内
  - 6. 1 唐原小学校5年生山国川学習講師
  - 6. 2 山国川を調べてみよう 主催
  - 6. 3 カプトガニと干潟観察会 主催
  - 6. 5 FMなかつ取材
  - 6. 7 ガタガタ通信印刷・発送
  - 6. 8 海ゴミフォーラム会場準備
  - 6. 9 フォーラム 海でつながる漂着ごみと市民運動 主催・交流会開催
  - 6. 10 大新田海岸清掃・漂着ごみ調査ミニ学習会開催
  - 6. 11 韓国ゲストと中津魚市場見学
  - 6. 12 三毛門小学校4年生海の学習講師
  - 6. 13 がんばれ大分ファンド中津審査会
  - 6. 14 如水小学校3年生干潟観察講師
  - 6. 15 小楠小学校4年生干潟観察講師
  - 6. 16 舞手川カプトガニ調査
  - 6. 17 舞手川アカミミガメ調査下見
  - 6. 19 四日市南小学校4年生学習講師
  - 6. 21 地方整備局意見交換会出席
  - 6. 22 豊陽中学校1年生環境学習講師
  - 6. 28 がんばれ大分ファンド中津地区推進会議
  - 7. 1 カプトガニ産卵調査
  - 7. 2 中津の漁業についてヒアリング
  - 7. 3 沖代小学校4年生環境学習講師
  - 7. 4 子どもの水辺連絡会打ち合わせ
  - 7. 6 沿岸域学会出席・発表
  - 7. 7 蛸瀬川・舞手川調査下見 H19年度調査打ち合わせ
  - 7. 8 第1回山国川~中津干潟 現地見学

■2007年たこつぼ漁はマリーナ・ビーチ活動振興助成より、海ゴミフォーラムはリバーフロント整備センター「川に学ぶ」助成および大分県地域活動支援費補助事業より、一部支援を受けて実施いたしました。ありがとうございました。

「海に環す水母の傷は海が医(いや)津田清子作」や「ばり外国にも日本製の製品が遠慮なく押しつけてますね。今度見に行こう」と。(あ)空梅雨？水不足？と思いきや九州が沈まんばかりの勢いの雨・雨・雨。ラニーニョの影響だって？ というより地球が号泣してるんじゃないの？(う)

6月3日の干潟かんごつ会にご参加くださったみなさま。嬉しなご様子に感謝申し上げます。

## 大新田ビーチクリーン & 漂着物調査 9月9日

集合：11:00大新田海岸  
(セブンイレブンさん奥)  
作業のできる服装と靴でどうぞ  
参加費無料・大雨中止



夏休み観察会はチラシを見てね!

### 「山国川発~中津干潟行 中津ん水物語」水環境情報発信プロジェクト

山国川が運んだ土砂で形成される中津干潟と山国川の水が育む豊かな自然と人の繋がり。この豊かで壮大な「水の物語」を再発見し、流域の水文化の発展と保全を目指すことを目的に、現地視察や勉強会を実施しています。興味のある方は事務局までご連絡ください。

### アヤシイ干潟調査隊2007★隊員募集中

今年もカプトガニ調査や干潟調査を計画中です。我こそは!と思う方、興味のある方、力持ちの方、減量中の方...事務局までご連絡ください。

### Asia-Pacific Water Forum

★12月3・4日別府市にて第1回アジア・太平洋水サミットが開催されます。アジア各国の首脳が集まり、アジア地域の水問題の解決に向けた検討が行われます。大分の水環境を大切に思い、活動する水辺に遊ぶ会は、中津の豊かな海と水環境を未来につなぐための発信をしたいと考えています。

★毎月11日はジャスコでお買い物★イオン三光SCイローレシートキャンペーン★毎月11日にお買い物をした黄色いシートを食品レジ前の「水辺に遊ぶ会」BOXに入れていただくと、金額の合計の1%が水辺に遊ぶ会の活動資金として寄付されます。

ホームページ営業中! 遊びに来てね!!

<http://www.max.hi-ho.ne.jp/y-ashikaga/>

## 水辺に遊ぶ会 MUSEUM

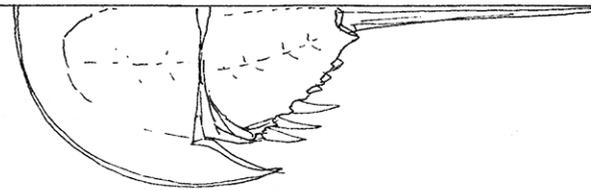
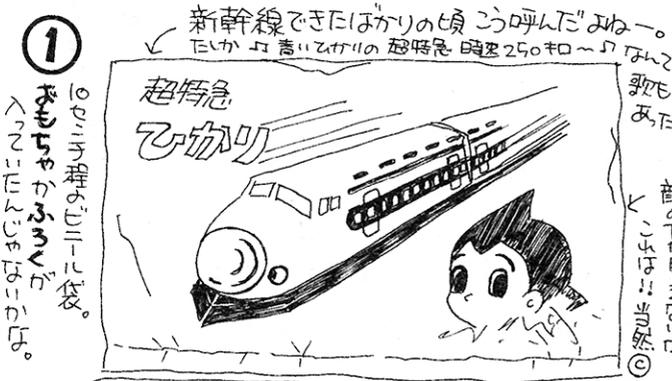
水辺に遊ぶ会ミュージアムは「建物のない博物館です」

<http://www.geocities.jp/kabunykun/index.html>

メールはこちらへ→[mizube1999@yahoo.co.jp](mailto:mizube1999@yahoo.co.jp)

# ★WANTED★ なんじゃこり? 正体をご存じの方いませんか?

三百間の広大な砂州の縁に現れた粘土質の層。多分、昔のアシ原の名残なんだろうけど、いったいつ頃のものなのか? アヤシイ干潟調査隊の調査中に、この粘土の層の中から、重要参考品を発見。ゴミだなんてバカにしちゃだめだよ。これって重要なアイテムなんだから!



## 大会宣言文

「海は世界を隔てるものではなく、繋ぐものである」

海の道がもたらした様々な文明によって私たちの生活は豊かになった。

しかし、いまや私たちはその文明により生み出された「ごみ」を持ってあまし、海に大きな負荷を強いている。

私たちの海は、かつてと同じように黙々とそれらを岸辺へと運び続けては、嘆いているのではないだろうか。

本日、韓国・日本双方の市民団体により報告された「漂着ゴミ」の問題は、もはや一国で解決できる問題ではなく、海を越えての協力関係を築かなければ解決できない問題であることを確認した。

「海は世界を隔てるものではなく、繋ぐものである」

本フォーラムの成果をふまえて、漂着ごみのない海を目指し、人々が国境を越え手を携えて連帯していくこと、そして、生命にあふれ、豊かな文化を運んでくれる私たちの海の自然を守ることを、ここに宣言する。

2007年6月9日  
NPO法人水辺に遊ぶ会主催  
「海でつながる海洋ゴミと市民運動」参加者

# 言葉が通じないとか、国が違えとか、そのらいつて きっと大きな問題じゃないってことに気がついた。 海が好きってココがあれば、簡単なことなんだ。

中津の海岸のごみを拾おうと思ったのは、私たちに楽しい思い出や出会いをわけてくれる中津干潟にお礼をしたがったから。でも、海のごみは拾っても拾ってもなくならない。何故だろう? 海に転がっている小さなごみひとつから、私たちはたくさんを知った。そして、海は、はる方角この異国の岸辺につながっているということを教えてくれたのも、漂着ごみからだ。

日本の海ゴミ事情・韓国の海ゴミ事情...そして、みんなにできることってなんだろう?

▼6月9日、水辺に遊ぶ会はかねてよりもくろんでいた企画を実行に移した。その名も「海でつながる漂着ごみと市民運動」拾うだけでええんじやるか?。いつもお世話になっている、国内外の海ごみ最前線で活躍する小島さん(JEAN)と、韓国で同じような活動をしている韓国海洋救助団(KMRC)のイさんとコさんをお迎えして、「本当のところ海ゴミは大変なことになってるんだぞ」という話をたくさんの人に聞いてもらいたかったのだ。

▼日本の海ごみ事情は、ガタガタ通信でも時折紹介しているが、お隣り韓国ではどうなんだろう?

▼韓国でも海ごみは増える一方。1998年には国家計画として海洋ごみ管理総合対策を立てているという。特に多く出る漁業関連ごみについては、使わなくなった漁網や網にかかった海洋ごみを持ち帰った場合、政府が買い上げたり、漁具に持ち主の名前を記入して管理を徹底するなどの具体的な措置が取られているのだ。この結果、漁場にごみが少なくなると、漁獲高が上がったというから驚きだ。

▼また、発泡スチロールを圧縮して再利用する減容機も開発。2000年からはKMRCが中心となり、官

民協力型でモニタリングが実施されているという。小島さんの「日本では十年間、黙々と海岸でごみを拾い続けるしかなかった。でも、同じ十年で、韓国はこれだけの実績を作ったのです(言葉が違っても、ごめんなさい)」との言葉が心にズシンと残る。国のトップの考え方でこんなに差が出るのかとため息...

▼後半はゲストに大分県の山路さん・日本水フォーラムの竹村さん・東大の清野さんもゲストに迎えて座談会。私たちにできることは、みんなが手をつなぎ、海を越えたネットワークで活動の輪を広げていくことなんだということを確認。中津宣言を採択した。

▼会場に来てくださった参加者の皆さま、ゲストの皆さま、応援して下さった行政の皆さま、そして美味しい差し入れや展示用カブトガニを提供して下さった漁師の皆さまに、感謝感謝感謝!一日でした。



## 日師匠に聞く 中津ん『笹干見漁』

ヒビちゅうのは、私はものごころついた時からおやじさんがしておりました。場所は私とこは三番ヒビちゅう番号があつて、一番ヒビは灯台のすぐのところにあつて、二番ヒビってというのが私達の真下にあつて三番ヒビが東の方になります。この建て込みの時期は田舎の屋形から西谷の方から笹干言うて、七夕様によく使うあれくらい程度の笹を、耶馬溪の方から馬車で積んで来とりました。約全長が西が二百メートル、東が四百メートルくらいあつて、笹の本数としては七千本。約五cm間隔から、ずつと上の方に行つたらもう十cm間隔で、奥の方の魚が寄る所は詰めてきつしりしちよつたからな。

毎年古いのが残るわね、古いのが残るからあいだ、あいだにまたはめて行く。その時はそうしておりました。だいたい三月頃から用意をして四月、西の方にかけてその時は今のように道具がないで、カネの棒でこう、ゆさぶつて穴を作つてそれに笹を一本刺す。今だったら水中ポンプで簡単に出来るけど、あの当時はカネの棒をゆさぶるこんで。日に四人で五百から六百本くらい打つたね。

四月いっぱいやって建て込みが終わりまりました。笹の長さが上の方が約二m、埋ける分が六十cmくらい、三本か四本の並びで作つた。(つづく)

## フォーラムこぼればなし

▼韓国のお客様のイさんは5年前日韓干潟調査の一環で中津に来られた経験もある方。海の生態系にも詳しいので、三百間 蛸瀬川左岸の湿地に案内したところ、すぐにその価値を理解してくれました。抹茶や蕎麦が大好きで、宮崎駿の「もののけ姫」は哲学のある素晴らしいアニメだとほめてくれたり、始終ジョークを飛ばす明るい方。日本初来日というコさんは、終始緊張気味でしたが、帰国する頃にはニコニコおしゃべりしてくれて、通訳の中村さん(中津在)共々、笑い転げた三日間でした。

▼気分をよくしたスタッフの面々、来年はコジエ島KMRCの拠点にごみ拾いツアーに行こうと盛り上がり上がっています。そのうちお知らせがガタガタ通信に掲載されるかも?

